



### 「種子の旅」 その2 植物はどうやってひろがる?!



#### くっついて運ばれる種子

たねにトゲやかきがついていたり、ねばねばした液を出して、動物の体にくっつきます。私たちが草むらでズ



ヤエムグラの種子



オナモミの種子



シロノセンダングサの種子

ボンや靴下などに、これらの種子をつけてしまっていることがあります。

#### 鳥などの動物に食べられて運ばれる種子

植物の果実には、鳥などの動物がよく気づくように果実があざやかな色をして



サクラの実

いたり、いいにおいをしているものがたくさんあります。

このタイプの植物はその果実の色やにおいで動物ををさそい、

食べられることで、おなかの中を通る間の動物の移動によって遠くに運ばれます。そして

フンといっしょに排出されて芽を出します。

また、ドングリの仲間（沖縄にもイタジイや

マテバシイなどのドングリがあります）は、

リスやネズミなどの小動物が種子を集めて貯蔵したときに、食べ

残しや食べ忘れから発芽することもあります。

さて、沖縄でよく見かけるガジュマルは、主にヒヨドリなどの鳥に食べられて遠くへ運ばれます。この種子は鳥の消化液にふれることで、発芽のスイッチがはいるのです。親木の足元に落ちて発芽し、将来親木と生存競争をすることを避けるしくみなのかもしれません。ガジュマルの根元を調べると、芽生えがほとんどないのですよ。（文責：玉村かおり）



アベマキの発芽

